

2016-10-21

JASMIRT 発足記念会 祝辞

原子力発電環境整備機構 理事長 近藤駿介

みなさま こんにちは。私は、原子力委員長を退任以来、高レベル放射性廃棄物の地層処分事業の推進と福島原発の取り組みのアドバイザーの役割を果たすことで多くの時間を使っており、なかなか皆様にお会いする機会がありませんが、高田先生から JASMIRT を立ち上げ、本格的に活動を開始するとのご連絡をいただき、一言お祝いをもうしあげたく、参上致しました。

改めて、この国において SMIRT に係る活動に取り組む核となる JASMIRT が発足し、本格的に活動を開始されたこと、おめでとうございます。また、ここに至るまで尽力され、さらに、これからこれを意義深いものにしていくべく様々な活動を企画推進することにご尽力される志の高い皆様に対して、心からの敬意を表します。

私が SMIRT に関係したのは1970年代の早い頃、高速実験炉「常陽」の仮想事故時の衝撃圧に原子炉容器が持つかどうかを火薬を使った模擬実験で確かめる、いわゆる耐衝撃試験、これは当時、PNC の委託で原子力安全研究協会に実施委員会を設置して行ったものですが、この研究成果を第2回 SMIRT 会議で発表するというので、実験を指導された安藤良夫先生の発表論文の作成をお手伝いしたのが最初だと思います。

その後、顔を出した会合で印象に残っているのはブラジルのポर्टアレグレで開催された SMIRT13でしょうか。PRA や信頼性の研究成果の発表に JAEA や NUPEC の皆さんと大勢で出かけ、次の週にドイツ人の街で開催されるポストセミナーに参加する予定を組んだのを幸いに、週末にアルゼンチンのブエノスアイレスの英雄、マラドー

ナ生誕の地にまで足をのびた記憶があります。この SMIRT13のコンフェレンス・デナーでは、本日ご出席の柴田先生に等身大の肖像画が贈呈され、ブラジル人はさすがにやるのが大きいという思いもありましたが、柴田先生のご活躍がいかに国際社会から高く評価されているかを改めて感得したことを記憶しております。

SMIRT は、原子力分野における構造力学の諸問題を議論する場として産業界、学界、行政の研究者、技術者が一同に会し、研究開発、実証、実用化の成果を示した学術論文を披露し、議論する場です。そこで扱うテーマは伝統的な力学解析、データ、基準といった10を超えるが20を超えないディシプリンからなるディビジョン構造をできるだけ変えないで維持する一方、時代を反映したテーマでこれらに横串を通し、そのマトリックスエレメントとしてセッションを構成することにより、常に時代に適合した国際会議として存在感を維持し、さらにホットピックスに関しては、本会議前後にそれらをテーマとするセミナーを開催して、新しい人々を仲間に加えてきました。

その結果、この会議は、現代社会を支える安全で効率的な原子力システムを構成する構造物の工学設計と運転を可能にする方法論や、その正しい応用に関する経験・知識を交換する場として、40年にわたって機能してきて、人類社会の発展と高度化に貢献してきたと評価しています。

また、合わせて重要なことは、NED というアーカイバル・ジャーナルと連携したことにより、この会議での議論を踏まえた学術論文が印刷・公刊されることにより、広く世界各国から時間を超えてこれにアクセスが可能になり、その結果、この分野の学术界、教育界、さらには、ジョブマーケットのためのグローバルな標準を生み出すことにも貢献してきていることです。

これ以上、皆様にご承知のこうしたことを申し上げるべきではないでしょうが、それを知りつつあえてこのようなことを申し上げたのは、実は、私、最近の様々な科学に関

する実践とその評価を見聞していて、科学技術が正しく機能し、権威を維持し続けているのは、多数の科学者・技術者がこうした学会に参加して、一人一人が肩書きや立場に関係なく、自分が誤りやすいことに無頓着で、身勝手にも、気に入った理論に夢中になり、それを説明するのにワイワイとうるさく、ガヤガヤと新たな証拠をけなしたりすることができるからだと、今更ながらですが、考えているからです。

そういう群がりであっても、あるいは、そうであればこそ、コミュニティ総体としては、美しくもその発言の自己修正をきちんと行い、真実を発信し続け、その権威が維持されるのだと思うのです。このことを”群がる知性は絶えず前進する”ということがありますが、その群がりのグループは大きい方がなおいいようです。このことからして、SMiRTは、原子力工学界にとって、輝かしいそうした場の一つであり、真実の源であり、宝物です。

しかして、決して忘れてはならないことは、この宝物は、こうした場の重要性を認識し、これを成功させたいとする多くの人々の継続する共同作業によってのみ、維持されるということです。原子力利用が正しい知識、正しい理解によって進められるべきと考えるなら、私どもは何としても、この群がる知性の出会いの場を大切にし、維持する取り組みに参加し、応援するべきです。

原子力工学の分野において、好奇心、開放性をもつ科学者・技術者がてんでに群がり、言いたいことをいい、議論を交わすなかでアイデアを追求し、真実を探り当てる場としての SMiRT を維持発展させ、国内外の、後続く人々に用意することに立ち上がった皆様に改めて敬意を表し、お祝いの言葉とさせていただきます。ご発展を心からお祈り申し上げます。

了